

患者さまと井上眼科病院をつなぐ「眼」の情報ペーパー

INOUEYE EYE

Note

ドライアイの新常識ー涙のアブラ足りていますか？

大宮・札幌新院長就任のご紹介

お茶の水・西葛西のホームページをリニューアル

2023
SPRING
vol. 124

ご自由にお持ちください。



井上眼科だより



医療法人社団 済安堂

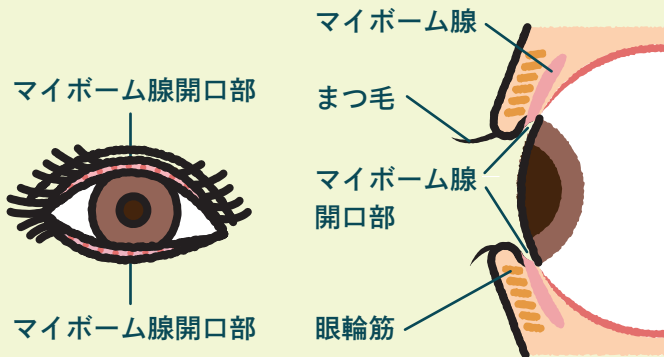
井上眼科病院グループ

INOUEYE EYE HOSPITAL GROUP

ホームページからもご覧いただけます。

マイボーム腺機能不全とは？

マイボーム腺は瞼にあり、油を分泌する腺です。上下のまつ毛のすぐ内側にマイボーム腺の開孔部があり、そこから油が分泌されます。本来、マイボーム腺から分泌される油は涙の表面を覆うことで涙の蒸発を抑え、涙を安定させる働きをもっています。マイボーム腺機能不全という病気は、色々な原因によりマイボーム腺の機能が大きく低下した状態です。マイボーム腺機能不全を起こす原因としては、加齢が最も大きく関与し、他には喫煙、コンタクトレンズ装用、緑内障点眼薬、糖尿病、脂質代謝異常、血圧などが挙げられます。マイボーム腺機能不全になると、涙の油が不足し



て、涙が不安定になりドライアイが発症します。最近の調査では、「油が足りないタイプのドライアイ」がドライアイ全体の86%以上であることが分かっています（※）。
※DEWS II report, Ocular Surface, 2017 Lemp, et al. Cornea. 2012 May;31(5):472-8.

マイボーム腺機能不全に効果的な治療法は？

今年2月に「マイボーム腺機能不全診療ガイドライン」が発表されました。このガイドラインではマイボーム腺機能不全に対するさまざまな治療法を評価した多数の論文を検討しました。その結果、推奨できる有用な治療法は、ホームケア、処方薬、クリニックでの施術の3本柱に分けられます。ホームケアとしては、温罨法（瞼を温める）、眼瞼清

拭（瞼の縁をきれいにする）、オメガ3脂肪酸の内服（サプリメントとして服薬）があります。処方薬としては、アジスロマイシン点眼、ステロイド点眼、抗菌薬内服があります。クリニックでの施術としては、マイボーム腺分泌物の圧出、LipiFlow（瞼に熱と圧力を与える治療法）、そしてIPL（Intense Pulsed Light）と呼ばれる治療法があります。

IPL治療の効果は？

IPL治療は、マイボーム腺機能不全の患者さまの瞼に強い光を当てることにより、マイボーム腺の油の流れをよくする治療法です。当院でも2021年よりこの治療法を開始してきました。IPLを行う際には、輪ゴムを皮膚ではじいたような軽い痛みがありますが、耐えられないような痛みではありません。また副作用はほとんどなく、安全な治療法です。ダウンタイム（施術後の制限）は基本的にありませんが、施術後2週間程度、紫外線（日焼け）対策が必要です。症状にもよりますが、3～4週間おきに4回以上実施すると高い効果が期待されています。これまで世界中で行われ、有効で安全であることが確認されており、マイボーム腺機能不全の重症度によりますが、80%程度の患者さまにおいて、自覚症状、マイボーム腺の状態、ドライアイの状態が改善したことが報告されています。

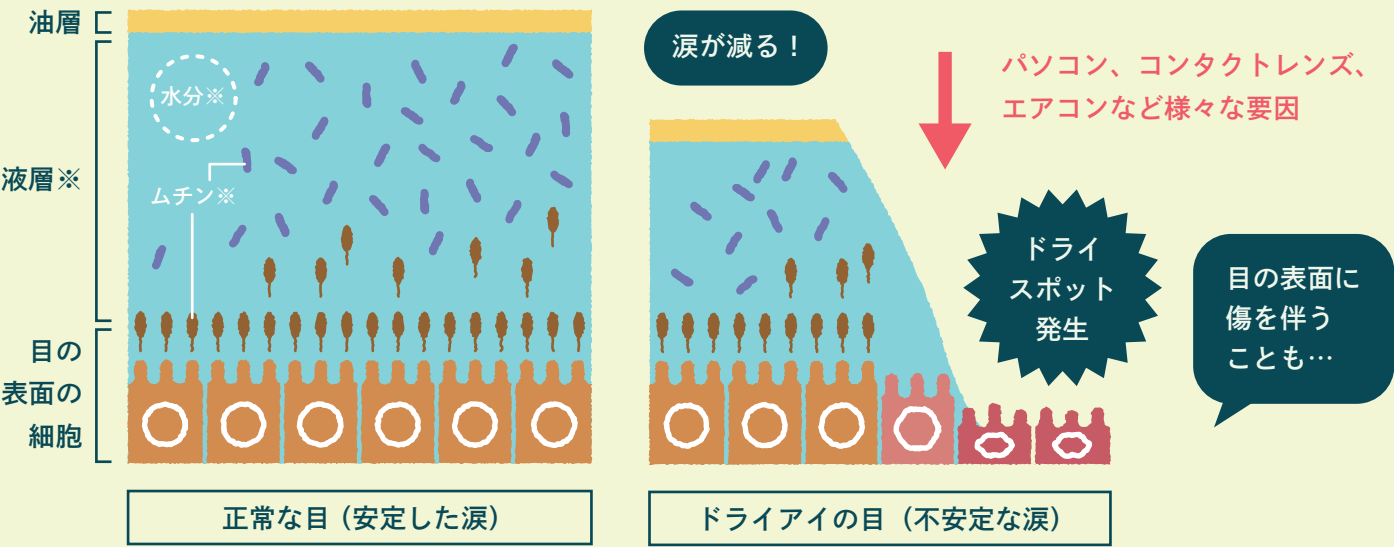


- 初めての方：一般眼科外来をご受診ください
- 通院中の方：主治医にご相談の上、天野医師の診察をご予約ください
- 他院からご紹介の方：天野医師への紹介状をお持ちください

〈IPL治療担当：天野院長、光畑医師〉

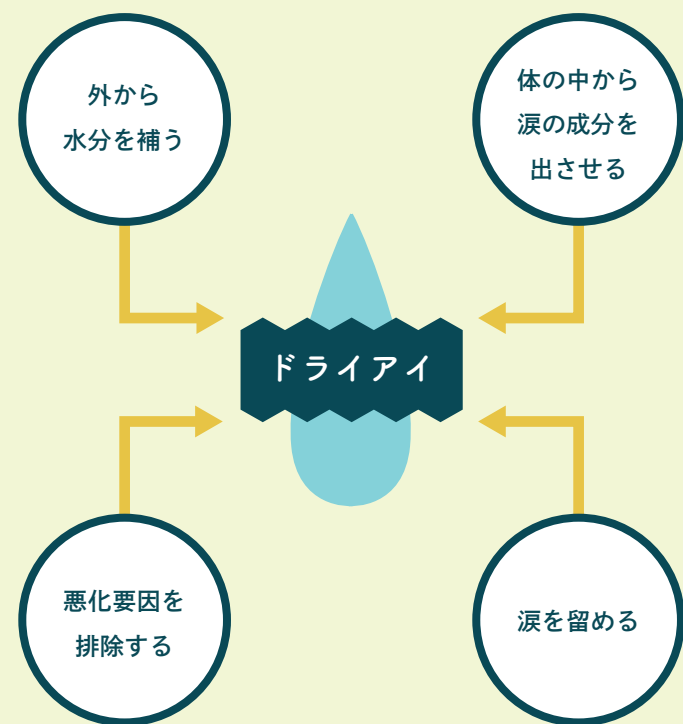
ドライアイの仕組み

ドライアイとはいわば「涙の病気」です。涙は角膜を守るために2つの層からできています。涙の蒸発を防ぐために、涙の大部分（95%）を占める「液層」をマイボーム腺から分泌される「油層」で外側を覆うことで涙の膜を作っています。この膜が薄くなると「ドライスポット」という部分が現れます。この部分は、涙でコーティングされていないため、角膜



ドライアイの治療法は？

ドライアイの治療には、外から水分を補う、体内から涙の成分を出させる、涙を留めるといったアプローチが挙げられます。一般的には点眼薬による治療が主流で、人工涙液やヒアルロン酸製剤など、目を潤すタイプの点眼薬と、ムチンなどを体内から出せる点眼薬などがあります。涙を留める治療法としては、「涙点プラグ」といって、涙の排出口を液体コラーゲンやシリコン製のプラグで塞いでしまう方法があります。それに加えて、涙の油不足が引き起こすタイプのドライアイに対して、まつ毛の内側にある「マイボーム腺」の状態を調べて、治療していく方法が新たに登場してきました。



の表面を傷つけやすくしてしまいます。ドライアイは大きく3つのタイプに分けられます。涙の量が減る「涙液減少型」、涙の油不足などによる「蒸発亢進型」、目の表面の細胞を覆うムチンの不足による「水濡れ性低下型」です。それぞれ治療法が異なるため、詳しい検査をして、涙の状態・バランスなどを調べていく必要があります。

井上式！よくわかる目の病気事典

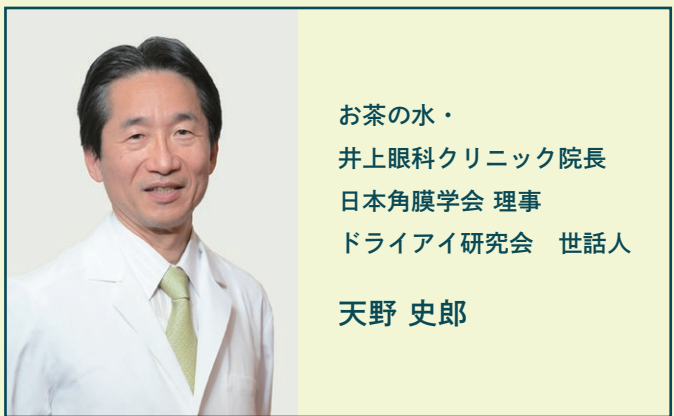
「ドライアイの新常識 —涙のアブラ、足りていますか？」

4月は花粉症や新生活の季節です。この時期に気になる目の病気が「ドライアイ」。ドライアイの患者は国内に2200万人以上（※）と推定されており、もはや国民病と言えそうです。昨今の研究では、新たに「マイボーム腺機能不全（MGD）」という病気との関連性も分かってきました。キーワードは「涙のアブラ不足」です。MGDの診療ガイドラインの責任編集者を務めた天野史郎院長に、ドライアイについて聞きました。

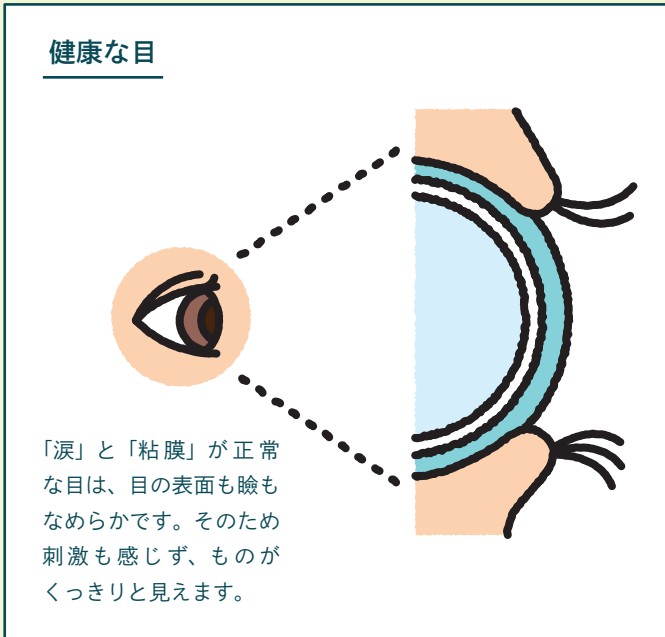
※ドライアイ研究会 HP より

ドライアイはこんな病気

ドライアイは、涙の量が不足したり、涙の成分が変化して、眼の表面を均一に潤すことができなくなる病気です。「目が乾く」といった不快感だけではなく、乾燥によって眼の表面を傷つけてしまう場合もあります。その原因もさまざまで、空気の乾燥、PCやスマホの使用（まばたきの数が少ない・きちんとまばたきができていない）、コンタクトレンズの使用、高齢化による涙腺の機能低下、薬

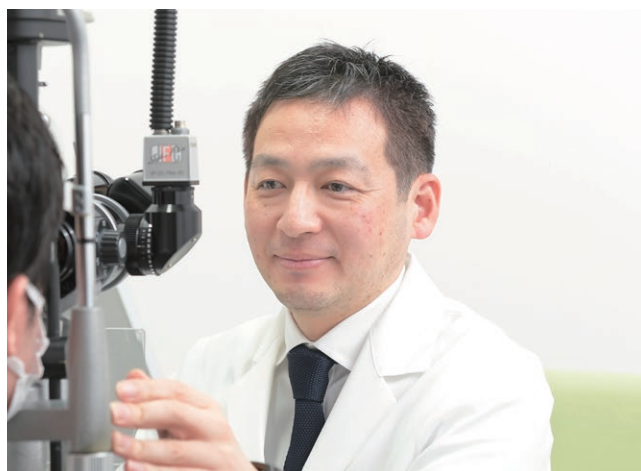


や他の病気の影響などが挙げられます。実は「目が疲れやすい」「ゴロゴロする」「目やにが出る」などの不快感にも、ドライアイの可能性が潜んでいるかもしれません。進行すると、視力低下や痛み、角膜上皮剥離（角膜が乾燥してはがれる病気）を発症してしまうこともあります。慢性化してしまう前に、早めに眼科で検査することが大切です。



2023年4月より、大宮・井上眼科クリニックと札幌・井上眼科クリニックに新しい院長が就任しました。

新院長のもと、これからもより良い診療を患者さまに提供してまいります。



浦木 健彦

Takehiko Uraki

札幌・井上眼科クリニック院長

2008年富山大学医学部卒。

北海道大学病院入局後に時計台記念病院を経て、

2022年西葛西・井上眼科病院に入局。

2023年4月、札幌・井上眼科クリニック院長に就任。

この度、札幌・井上眼科クリニックの院長を拝命いたしました浦木 健彦です。西葛西・井上眼科病院では、主に白内障と網膜硝子体の手術を担当していました。特に、網膜硝子体手術では、網膜剥離や糖尿病網膜症の手術に当たってまいりました。全国でも有数の手術実績を誇る西葛西の病院では、お子さまからご高齢の方まで年齢も症例也多岐にわたります。毎日多くの患者さまを診療してきましたが、他のスタッフとのチームワークで質の高い医療を提供してまいりました。札幌でもスタッフ一丸となって患者さまを支え、クリニックとして質の高い適切な外来診療・手術に努めてまいります。西葛西での経験を活かし、新たに網膜硝子体手術を取り入れて、より高度な眼科医療を提供したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



姜 正信

Jungshin Kang

大宮・井上眼科クリニック院長

2012年鹿児島大学医学部卒。

聖路加国際病院を経て、2019年井上眼科病院に入局。

2023年4月、大宮・井上眼科クリニック院長に就任。

大宮・井上眼科クリニックの院長を拝命いたしました姜 正信と申します。これまで大宮とお茶の水・井上眼科クリニックで一般眼科外来を担当していました。日々の診療において、「患者さま一人ひとりに明るい気持ちで丁寧に接すること」を心がけています。院長としても変わることなく丁寧に診療を行うことで、患者さまに“優しい”病院を目指してまいります。それが他のスタッフにも良い影響をもたらし、効率のいいチーム医療につながると考えております。井上眼科病院グループは、眼科領域の中でも細分化された専門家の医師が多数在籍しており最先端の治療が受けられる病院です。より専門的な治療が必要であれば、グループ内の紹介もスムーズに行うことができますので、安心してご受診していただければと思います。

GROUP NEWS TOPIC

お茶の水・西葛西のホームページを リニューアルしました。

井上眼科病院グループのホームページが新しくなりました

2023年3月にお茶の水・西葛西のホームページがリニューアルされました。それに伴い、井上眼科病院とお茶の水・井上眼科クリニックのホームページを統合いたしました。新ホームページではスマートフォンでも使いやすいデザインに変更されています。本紙とも連動し、最新の手術や治療などのコンテンツを配信いたします。ぜひご覧ください。SNSでも当院の最新情報を発信しています！



Facebook



Instagram
(2023年4月より開設)



▲井上眼科病院／お茶の水・井上眼科
クリニックホームページが統合されました



▲西葛西・井上眼科病院

INFORMATION

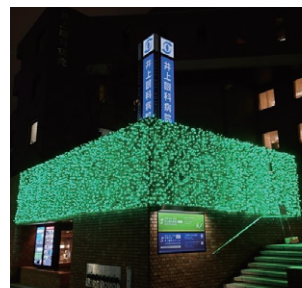
お茶の水 新副院長のご紹介

2023年4月1日より砂川広海医師が井上眼科病院の副院長に就任しました。2013年に入局され、一般眼科外来と白内障手術を主に担当しています。今後は副院長として大宮でも白内障手術を行います。砂川医師コメント「4月より井上眼科病院の副院長を拝命しました。白内障手術で見えるようになった患者さまが喜んでくださるのが、やりがいを感じる瞬間です。それぞれに合った正確な診断と治療をご提供できればと思います。何か少しでも不安に感じることがありましたらご相談ください。」



グループ 世界緑内障週間「ライトアップ in グリーン運動」参加

毎年3月の世界緑内障週間に行われる「ライトアップ in グリーン運動」に今年も参加いたしました。2017年からこの運動に参加しており、今年はお茶の水・西葛西・札幌の3施設がライトアップされました。緑の光は、「あなたの眼がずっと見えていますように」という希望の光でもあります。



グループ NHK「あしたが変わるトリセツショー」に天野院長出演

3月9日(木)に放送された「1日たった10秒でドライアイが改善!? 涙のトリセツ」に天野史郎院長が出演いたしました。番組内では「マイボーム腺機能不全診療ガイドライン」の責任編集者として、最新のドライアイ治療を解説いたしました。

